

## 中学校学習指導要領 新旧対比表

現 行	新
<p><b>第1 目 標</b> 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p><b>第2 各学年の目標及び内容</b> 〔第1学年〕</p> <p><b>1 目 標</b></p> <p>(1) 自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 必要な材料を基にして自分の考えをまとめ、的確に書き表す能力を高めるとともに、進んで書き表そうとする態度を育てる。</p> <p>(3) 様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p> <p><b>2 内 容</b></p> <p><b>A 話すこと・聞くこと</b></p> <p>(1) 話すこと・聞くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。</p> <p style="margin-left: 20px;">ウ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して、話したり聞き取ったりすること。</p> <p style="margin-left: 20px;">エ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p> <p><b>B 書くこと</b></p> <p>(1) 書くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ア 身近な生活や学習の中から課題を見つけ、材料を集め、自分の考えをまとめること。</p> <p style="margin-left: 20px;">イ 伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考</p>	<p><b>第1 目 標</b> 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。</p> <p><b>第2 各学年の目標及び内容</b> 〔第1学年〕</p> <p><b>1 目 標</b></p> <p>(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。</p> <p>(3) 目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p> <p><b>2 内 容</b></p> <p><b>A 話すこと・聞くこと</b></p> <p>(1) 話すこと・聞くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ア <u>日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">イ <u>全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">ウ <u>話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">エ <u>必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">オ <u>話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</u></p> <p>(2) <u>(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">ア <u>日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">イ <u>日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</u></p> <p><b>B 書くこと</b></p> <p>(1) 書くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。</p> <p style="margin-left: 20px;">ア <u>日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。</u></p> <p style="margin-left: 20px;">イ <u>集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成</u></p>

えや気持ちを明確にすること。

- ウ 自分の考えや気持ちを的確に表すために、適切な材料を選ぶこと。
- エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
- オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の集め方などについて自分の表現の参考にする。

C 読むこと

- (1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
  - ア 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。
  - イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。
  - ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。
  - エ 文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること。
  - オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。
  - カ 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること。

〔言語事項〕

- (1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

- ア 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意すること。
- イ 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意すること。
- ウ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

すること。

- ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
- エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。
- オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。

- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。
- イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。
- ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。

C 読むこと

- (1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
  - ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。
  - イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。
  - ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
  - エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。
  - オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。
  - カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。

- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。
- イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。
- ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

- (1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

- (ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。
  - (イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
  - (ア) 音声の働きや仕組みについて関心もち、理解を深めること。
    - (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。
    - (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。

エ 話や文章の中の段落の役割や文と文との接続関係などを考えること。

オ 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

カ 話し言葉と書き言葉との違いについて理解し、適切に使うこと。

(2) 漢字に関する次の事項について指導する。

ア 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読むこと。

イ 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

(3) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書くこと。

イ 漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書き、漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標

(1) 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

(2) 様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身に付けさせるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

(3) 目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。

ア 広い範囲から話題を求め、話したり聞いたりして、自分のものの見方や考え方を広めたり、深めたりすること。

イ 話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見との関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりすること。

ウ 話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすること。

エ 相手の立場や考えを尊重し、話合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること。

(I) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。

(ウ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表(以下「学年別漢字配当表」という。)に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。

イ 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。

〔第2学年〕

1 目標

(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。

(2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。

(3) 目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くこと的能力を育成するため、次の事項について指導する。

ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。

イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。

オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞

B 書くこと

- (1) 書くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
- ア 広い範囲から課題を見付け、必要な材料を集め、自分のものの見方や考え方を深めること。
  - イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にすること。
  - ウ 文章の形態に応じて適切な構成を工夫すること。
  - エ 自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。
  - オ 書いた文章を読み返し、文や文章を整えて、説得力のある文章にすること。
  - カ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や材料の活用の仕方などについて自分の表現に役立てること。

C 読むこと

- (1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
- ア 文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。
  - イ 書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。
  - ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。
  - エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
  - オ 目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。

〔言語事項〕

- (1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。

いて意見を述べたりすること。

イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。

B 書くこと

- (1) 書くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
- ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。
  - イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。
  - ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。
  - エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。
  - オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をししたりして、自分の考えを広げること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をついたり物語などを書いたりすること。

イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。

ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。

C 読むこと

- (1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
- ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。
  - イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。
  - ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。
  - エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。
  - オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。

ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

- (1) 「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」及び「C 読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。
- ア 伝統的な言語文化に関する事項
    - (ア) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。
    - (イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像す

- ア 音声の働きや仕組みについて関心を持ち、理解を深めること。
  - イ 慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意すること。
  - ウ 抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。
  - エ 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気付くこと。
  - オ 文の中の文の成分の順序や照応、文の組立てなどについて考えること。
  - カ 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。
  - キ 共通語と方言の果たす役割などについて理解するとともに、敬語についての理解を深め生活の中で適切に使えるようにすること。
- (2) 漢字に関する次の事項について指導する。
- ア (第2学年) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むこと。  
(第3学年) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。
  - イ (第2学年) 学年別漢字配当表の漢字のうち950字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。  
(第3学年) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
- (3) 書写に関する次の事項について指導する。
- ア 字形、文字の大きさ、配列・配置などに配慮し、目的や必要に応じて調和よく書くこと。
  - イ 漢字の楷書や行書とそれらに調和した仮名の書き方を理解して書くとともに、読みやすく速く書くこと。

- ること。
- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
    - (ア) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。
    - (イ) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。
    - (ウ) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。
    - (エ) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。
    - (オ) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。

- ウ 漢字に関する事項
    - (ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むこと。
    - (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
- (2) 書写に関する次の事項について指導する。
- ア 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。
  - イ 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。

〔第3学年〕

1 目標

- (1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
- (2) 目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。
- (3) 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

2 内容

A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。
  - ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説

得力のある話をすること。

イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。

ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。

エ 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。

イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

## B 書くこと

(1) 書くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。

ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。

イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。

ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。

エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。

イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

## C 読むこと

(1) 読むことの能力を育成するため、次の事項について指導する。

ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。

イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。

ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。

エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。

オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 物語や小説などを読んで批評すること。

イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。

ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔言語事項〕について相互に密接な関連を図るとともに、各学年にふさわしい学習活動を組織して効果的に指導すること。

(2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、次の事項に留意すること。

ア 目的や方向に沿って効果的に話したり、相手の意図を考えながら聞いたりする能力を高めるようにすること。その際、広く話題を求めよう、意図的、計画的に指導する機会を設けること。

また、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

イ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うこと。

(ア) 説明や発表などを行うこと。

(イ) 対話や討論などを行うこと。

ウ 指導に配当する授業時数の国語科の授業時数に対する割合は、各学年とも10分の1～10分の2程度とすること。

(3) 第2の各学年の内容の「B書くこと」に関する指導については、次の事項に留意すること。

ア 相手や目的に応じて効果的な文章を書くことのできる能力を高めるようにすること。その際、様々な形態の文章を書かせるとともに、論理的に書く能力を育てるようにすること。

イ 指導に当たっては、例えば次のような言

について指導する。

ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。

(イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。

ウ 漢字に関する事項

(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

(2) 書写に関する次の事項について指導する。

ア 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年の前後の学年で取り上げることでもできること。

(2) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について相互に密接な関連を図り、効果的に指導すること。その際、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。また、生徒が情報機器を活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(3) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では年間10～20単位時間程度とすること。また、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。

(4) 第2の各学年の内容の「B書くこと」の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間30～40単位時間程度、第3学年では年間20～30単位時間程度とすること。

語活動を通して行うこと。  
(ア) 説明や記録などの文章を書くこと。  
(イ) 手紙や感想などの文章を書くこと。  
(ウ) 報告や意見発表などのために簡潔で分かりやすい文章や資料などを作成すること。

ウ 指導に配当する授業時数の国語科の授業時数に対する割合は、各学年とも10分の2～10分の3程度とすること。

(4) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、次の事項に留意すること。

ア 目的や意図に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てるようにすること。その際、広く言語文化についての関心を深めるようにしたり、日常生活における読書活動が活発に行われるようにしたりすること。

イ 古典の指導については、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い古典に親しむ態度を育てるとともに、我が国の文化や伝統について関心を深めるようにすること。その教材としては、古典に関心をもたせるように書いた文章、易しい文語文や格言・故事成語、親しみやすい古典の文章などを生徒の発達段階に即して適宜用いるようにすること。なお、指導に当たっては、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことができるようにし、文語における言葉のきまりについては、細部にわたることなく、教材に即して必要な範囲の指導にとどめること。

ウ 文学作品などの成立年代やその特徴などに触れる場合には、通史的に扱うことはしないこと。

エ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うこと。

(ア) 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。

(イ) 目的や必要に応じて音読や朗読をすること。

(5) 第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の言語活動の指導に当たっては、学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。

2 第2の各学年の内容の〔言語事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 〔言語事項〕の(1)に示す事項は、第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して身に付けさせるとともに、国語の特質を理解させるために、ある程度まとまった知識を得させる指導にも配慮すること。その場合、日常の言語活動を振り返り言葉のきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てることを重視するとともに、必要以上に細部にわたったり形式的になったりしないようにすること。

(2) 〔言語事項〕の(1)に示す事項は、必要に応じて当該学年の前後の学年において取り上げることでもできること。

(3) 〔言語事項〕の(3)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

(5) 第2の各学年の内容の「C読むこと」に関する指導については、様々な文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにすること。

(6) 第1章総則の第1の2及び第3章道德の第1に示す道德教育の目標に基づき、道德の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じた適切な指導をすること。

2 第2の各学年の内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、次のとおり取り扱うものとする。

(1) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(1)に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。

ア 知識をまとめて指導したり、繰り返して指導したりすることが必要なものについては、特にそれだけを取り上げて学習させることにも配慮すること。

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項については、日常の言語活動を振り返り、言葉の特徴やきまりについて気付かせ、言語生活の向上に役立てることを重視すること。

(2) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の(2)に示す事項については、次のと

ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

イ 毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。

ウ 書写の指導に相当する授業時数の国語科の授業時数に対する割合は、第1学年は10分の2程度、第2学年及び第3学年は各学年10分の1程度とすること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと的能力及び読むこと的能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、1の(2)のイ、(3)のイ及び(4)のイに掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。

エ 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。

オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

キ 我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。

4 第2の内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、すべての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず指導することができること。

5 選択教科としての「国語」においては、生徒の特性等に応じ多様な学習活動が展開できるように、第2の内容その他の内容で各学校が定める

おり取り扱うこと。

ア 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

イ 硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること。

ウ 書写の指導に相当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、話すこと・聞くこと的能力、書くこと的能力、読むこと的能力などを偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成をねらいとし、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

(2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

ア 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。

イ 伝え合う力、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つこと。

ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。

エ 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。

オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。

カ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

キ 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(3) 第2の各学年の内容の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章形態を調和的に取り扱うこと。

(4) 我が国の言語文化に親しむことができるよう、近代以降の代表的な作家の作品を、いずれかの学年で取り上げること。

(5) 古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。

ものについて、課題学習、表現や理解の能力を  
補充的に高める学習、発展的な学習などの学習  
活動を各学校において適切に工夫して取り扱う  
ものとする。